



新年のご挨拶

公益社団法人高知県看護協会
会長 藤原 房子

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

また、日ごろは当協会事業の推進にご支援・ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、日本看護協会は、2040年に向け、新しい「看護の将来ビジョン」を今年6月に公表するよう検討を進めています。2040年の社会、医療、看護のすがたを描き、看護がめざすもの、あるべき看護の実現に向けた方向性が示されます。高知県は全国に先行して少子・高齢化、人口減少が急速に進んでおり、保健、医療、福祉を取り巻く多くの課題を抱えています。少子化については、令和5年の出生数は3,380人と前年より341人減少しています。さらに周産期医療を取り巻く状況は、産科医師の減少等に伴い、分娩ができる施設の減少など厳しい状況になっています。このような中、助産師の果たす役割はますます大きくなっています。今後、安心して子どもを産み育てられることを目指して、県や関連団体と連携して取り組んでまいります。

また、県内の多くの施設で看護職、看護補助者の人材確保が困難な状況となっています。高知県ナースセンターでは、昨年からは看護職に加え、看護補助者の就業支援を開始しています。今後も引き続き、ハローワーク等と連携し、看護職、看護補助者の確保・定着に取り組んでいきたいと考えています。

昨年5月日向灘で発生した地震により、宿毛市では震度6弱を観測しましたが、幸い人的・物的な大きな被害がなく安堵しました。さらに昨年8月には、日向灘でマグニチュード7.1の地震が発生し、はじめて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発令されました。南海トラフ地震は、今後30年以内に70～80%の確率で発生すると予想されており、災害に備えた対応が喫緊の課題となっています。

昨年4月の感染症法及び医療法の改正に伴う新たな災害支援ナースの育成研修は2年間で111名が修了し、厚生労働省により災害支援ナースとして登録されます。今後も、引き続き災害支援ナース、地域災害支援ナースの育成に取り組むとともに、県や市町村、地区支部等と連携した災害への備えに取り組んでまいります。

当協会では、これからも看護の質の向上をめざして、さまざまな場で活躍できる看護人材の育成に向けた研修を開催します。本年も会員の皆様にご協力を頂きながら事業を進めてまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

令和7年の干支は「巳」、「再生と変化」を意味するといわれ、また新しいことが始まる年とも言われています。当協会も様々な変化に対応し、前に進んでいきたいと思っております。

今年が平和で穏やかな年になりますよう会員の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りして、年頭のご挨拶といたします。